

野の花新聞

No. 5 10月10日号 「母」

みなさま、こんにちは。

「野の花」のみなかた あきこ です。

突然、秋がきましたね。

空が澄みわたってうれしいけれど、大きな気温の変化について行くのは結構大変・・・

自分の体ときちんと向き合って季節の変化に合わせていかなければ、とあらためて気持ちをひきしめています。

みなさま、体調はいかがですか？



先日、東京の学校で インナーチャイルドに会ってきました。癒されていない心を抱えた子ども時代の私が、そこにいました。

母と兄が楽しそうに話しています。私が「おかあさん、あのね・・・」と言いかけると「今兄ちゃんと話しとうから」と母。

「おかあさん」と母にもたれると、「忙しいからあっち行つとき」と押し戻されます。

おかあさんは私のことが嫌いみたい。おにいちゃんとはいっぱい話をするのにな。私がおにいちゃんみたいにかしこくないから？かしこい話ができないから？もっとかしこくて良い子にならないとかわいがってくれないの・・・？

3歳頃の私は、かわいがってほしくて、ほめてもらいたくて、一生懸命良い子になろうとしていました。それは思春期以降、母への大きな反発に姿を変えました。母もまた、親としての自信を打ち砕く私の言葉にずいぶん傷ついたことと思います。

「あんたととは合わへんから、親子の縁切ってもいい」

「いつまでたっても成長できてへん子や」

そして14年前「子どもだけ置いて出て行きなさい」と冷たく言い放ちました。

おかあさん インナーチャイルドは「おかあさんがほんとうはすごく好き」と言いました。

ずっとおかあさんを好きで、それを受け止めてほしかったことに気づいたとたん、これまでのわだかまりは全部消えていました。

母は87歳になります。かつての厳しかった面影はありません。これまでの私との葛藤も、忘却の霧に包まれつつあります。母の子どもに生まれてきてよかったと 今のうちに伝えておきたい。そう思います。



南方 共 (みなかた くう)

猫ミックス 3才

その食べっぷりと粗相の回数では南方家で並ぶものがない。

犬のすばるより重く、抱き上げると落としそうになる。